

災息無病  
福招災除

# 夏越祭

(7月29日)



— (宝永四年) 一七〇七 貝原益軒書 —

# 岡田宮

第37号

平成16年7月吉日  
発行 岡田宮社務所  
北九州市八幡西区岡田町1番1号  
郵便番号 806-0033  
電話 (093) 621-1898  
FAX (093) 621-5330

## 岡田宮夏越祭 ごあんない

平成十六年七月二十九日 ㊦ 午後六時～九時 (雨天決行)

社頭に設けた茅の輪をくぐれば、悪疫を免れ幸福と繁栄を招来するという古式に則った夏越祭を厳修いたします。

大祓神事 午後六時より  
どなたでも参加できます。参列の方には大祓詞をさしあげます。ふるってご参加ください。

当日ご参拝の方に

- 「お札」と「茅」を授与いたします。
  - 魔除けとして玄関に奉斎して下さい。
  - 無病息災・除災招福御神酒接待
  - ご参拝の方に御神酒をご奉仕いたします。
  - 総当たり福引き・かき氷  
地元青年会の屋台がたちます。
- いづれも一回100円
- アニメ上映



明治天皇御製  
さしのぼる朝日あさひのごとくさわやかに  
もたまほしきは心こころなりけり。

当日この券をご持参ください  
福引き・かき氷のいずれか  
1回が無料になります。

おのり  
無料券

# 神社総代研修会

三月三十一日(水) 晴

片田一夫・梶原草旺・総代会責任役員以下四十名を乗せたバスは一時間三十分かけて福岡県三潴郡城島町上青木鎮座の青木天満宮に到着しました。



御祭神は菅原道真公が奉祀されています。

正式参拝後、久富真人彌宣から「神社とまつり」をお話していただきました。

昼は、名物うなぎの味に舌鼓

を打ち午後からは旧柳川藩主立花邸・松涛園を拝観。

歴史とロマンのまち柳川を散策し楽しい一日を過ごしました。今回も有意義な研修会でした。今後の神社運営に反映していきたいと思えます。

## 郷土地名考

37

### 洞岡(くきがおか)

市民には日常ほとんど関係のない地域で、新日鉄構内北西部。新日鉄の前身は官営八幡製鉄所で一八九六年(明治29)設立、一九〇一年には操業を開始した。官営だから工場長は長官と唱えている。以後製鉄の過程で生まれる大量の鉱滓を、洞海湾に投棄した埋め立て地も四十万坪に達し、ここに昭和初年から各種工場が次々に建設された。

製鉄所創業当時から在職した小林運重という人の懐旧談には、この埋立地名の由来が記されている。

それによると、埋立地は完成するに従い原料置き場に使われることになったが、単に埋築地では都合が悪い。また八幡市の地籍に入れるについても字名が必要となり、この命名が問題となった。小林は「洞海を埋め立てたのだから洞岡

(くきがおか)は「いかか」と提案し、それが認められたとなっている。

### 天神(てんじん)

天神という町名は銀座と共に全国に散在している。いずれも菅原道真の史跡や伝承に因んでおり、天満天神として祀る北野天満宮、太宰府天満宮、北九州市では小倉北区と戸畑区の菅原神社が著名、若松には天満宮と菅原神社二つがある。八幡東区の天神は北九州道路大谷インターランプの西側になり、由緒の天神様は道路の横に小さな菅原神社がある。町の南側高台に今は移転した天神小学校があった。

ここらあたり戦前は松林で天神様も森の中にあつたという。



# 神さまの存在を示す神社

## 鎮守の森

日本全国津々浦々、どこへ行っても必ず見かけるのは、こんもりとした森に囲まれた中に、ひっそりと鎮まっている神社である。神社の「社」という字も、もとは「社(森)」であった。神の杜である。緑の森が人間にとつていかに大切かはいうまでもないが、近年急速に失われていく自然の中で、この鎮守の森は、自然を破壊から守る最後の砦となっている。それは古来神社の森、鎮守の森が神の坐すところとして、千古斧を入れないことを鉄則としてきたところが



少なくなく、そのためコンクリートばかりの都市の中でも、ここだけはたとえ小さくとも緑がのこつていて、まさに砂漠の中

のオアシスの観を呈しているのである。単に樹があるというだけではなく、幾星霜にもわたつて、神聖なものとして大切に守られてきたことによつて、当然のことながら、その土地にもつとも適応した樹木が生育し、安定した生態系が維持されているのであつて、これを新たに人工的に植樹して造成しようとする、百年ないし数百年を要する。

このような鎮守の森の重要性は、植物生態学の方からかねて指摘されてきたところであるが、近頃は社会学者の間からも、実はそこに信仰が生きていることによる精神的な要素を重要視する意見が出ている。物質文明の豊かさとは反比例して、精神の枯渇の著しい昨今、鎮守の森の自然の中に、いまも生きていく古代的な信仰は、現代の人びとにうるおいを与えるものとして、自然と精神の相乗的効果のあることも証明されている。

## 神社 なぜ 問答

(その37)

Q 神道(しんとう)について教えてください。

神道の起源はとも古く、日本の風土や日本人の生活習慣に基づき、自然に生じた神観念です。このためキリスト教のキリストのような開祖はいませんし、「聖書」のような教典もありませんが、(1)『古事記』や『日本書紀』、(2)『風土記』などにより、神道の在り方や神々のことを窺うことができます。

日本人の生活と深い関わりのある神道は当初から宗教や宗派として認識されていたわけではなく、仏教が大陸から伝来したのち、それまでの我が国独自の慣習や信仰が御祖神(みおやがみ)の御心に従う「かむながらの道(神道)」として意識されるようになりました。神社の創立の由来はとも古く、それぞれの土地や氏族の神話的な淵源に根ざしたものです。

日本人の民族性とも共通することですが、神道の特色の一つとして、外来の他宗教に対する寛容さを挙げることができま。神道は仏教や儒教・道教なども習合し、中世から近世にかけてさまざまな思想的な展開が見られ、我が国の文化に大きな影響を及ぼしました。しかし、我が国独自の神観念は変わらず、現在まで脈々と受け継がれています。

さて、我々が生活する地域の氏神様を含めて、神社は全国至るところにあり、八百万(やおよぼす)の神といわれるほど多くの神々が森厳なる神社の境内の中にお鎮(しず)まりなられています。これは我々が生活を豊かに育んできた自然の中に神々の姿を感じ、畏敬の念をもつて接してきたことによります。こうした自然との調和を大切に神道は、より良い自然環境を次世代に継承させるといふ観点からも、今後更に重要となるのではないのでしょうか。

また、神道の特色の一つとして神々を敬い祖先を大切に(敬神崇祖・けいしんすうぞ)といった考え方があります。これは神々が他の宗教のように隔絶された御存在ではなく、我々の御祖神として深い繋がりがあつたことを説いたものです。自らの御先祖も丁重にお祀(まつ)りすることにより、我々を見守つて戴ける神々としてお鎮まりになられるのです。



編集部より 神道についての素朴な疑問等を募集しております。神社本庁教学研究部の協力でお答えします。御質問は紙面の都合上、基礎的な質問に限らせていただきます。質問者名等は掲載いたしません。質名前、御連絡先は忘れずにお願いたします。

## 七五三

七五三祭は、子供の成長にともない折り目、折り目に神社にお参りして、いっそうの息災成長を祈る行事です。

三歳の男子女子の祝いを髪置、五歳の男子の祝いを袴着、七歳の女子の祝いを帯解きなどと称しますが、これらの名称や、その年齢は地方により、時代によって必ずしも一定しません。ともあれ、七五三は江戸時代から、広く行われた行事で岡田宮では、十一月十五日を当日とし、その後を通じてにぎやかなお参りが行われます。

なお、平成十六年の七五三の年齢は、左記のとおりです  
 で、ご家族おそろいでお参り下さい。

## 記

- 三歳 平成十四年生 (かぞえ齢)  
 平成十三年生 (満年齢)  
 五歳 平成十二年生 (かぞえ齢)  
 平成十一年生 (満年齢)  
 七歳 平成十年生 (かぞえ齢)  
 平成九年生 (満年齢)

※年齢はかぞえ年でも、

満年齢でもかまいません。

※毎日午前九時より午後五時

まで受付をしています。



## うれしい日

今日はうれしい日であった  
 やさしい言葉にふれたから

今日はうれしい日であった  
 おいしいものをたべたから

今日はうれしい日であった  
 仕事がたくさんできたから

今日はうれしい日であった  
 さびしい人を慰めてあげたから

## 人生の春

森が目ざめて

新しいみどりかげふる

ひばりの歌に

地上のすべてが伸びてゆく

若人よ

新芽は伸びても

胸おどらずや

若人よ

ひばりはないでも

胸おどらずや

人の世の春に恵みあれ

## 岡田宮新役員

総代会理事 南島 一美

## 神前結婚プラン

200,000 円

(税込み)

挙式料・写真3ポーズ2冊

(御一人・御二人・集合)

美容・着付け・衣裳

(かつら・かんざし・紋付・白無垢)

- お写真は、六切り (16cm×22cm) です。
- ポーズ追加料金……1ポーズ ¥9,450
- 焼き増し料金……1枚 ¥5,250
- 色打掛・洋装追加プランもございます。

(株) 有川写真館

☎ 0120-62-2080